

## ポスト TPP におけるアジア太平洋の経済秩序の新展開 —インクルーシブな経済連携の加速化と取り残される地域の対応分析—

### 【研究の背景】

#### (1) TPP 妥結がもたらす影響の大きさ

世界経済の重心がアジア太平洋にシフトする中、同地域の統合プロセスは今や大きな転換期を迎えている。TPP（環太平洋パートナーシップ協定）交渉が大詰めを迎えており、同交渉が妥結されれば、同時並行で進む他の広域 FTA（以下、メガ FTA）に先駆けて、アジア太平洋に跨る巨大自由貿易圏が誕生することとなる。TPP は、世界貿易機関（WTO）の水準を遥かに超える高い自由化と新しいルール分野を包摂する「21 世紀型」の通商枠組みである。WTO ドーハ・ラウンド交渉が停滞を続ける中、いまや世界の通商秩序づくりの潮流はメガ FTA が中心となっており、世界貿易全体の秩序形成という観点から考えれば、TPP 妥結は今後の通商秩序の形成や貿易投資構造の変化に対して決定的な影響を与えることが予想される。そのため、この TPP 妥結が RCEP（東アジア地域包括的経済連携）など他の FTA 交渉や域内各国の貿易政策に如何なる影響を及ぼすかについて分析しておくことが日本も含めて今後の各国の対外経済戦略を考える上で極めて重要となる。また、貿易投資を通じて経済関係の相互依存が深いアジア太平洋地域にとっては、TPP は経済統合を促進させ、経済成長を加速させる重要な要素でもある。TPP の発効により域内の貿易投資活動が活発となり、貿易投資の流れにも大きな変化が生じることが予測される。

その一方、リスクとして認識すべきは、TPP が目指す高水準の自由化と野心的なルール分野に追いついていくことができず、TPP から取り残される国や地域が出てきてしまう恐れがあるという点である。この観点からは市場開放レベルが低い途上国はもとより、世界第 2 位の経済大国となった中国の動向が注目される。TPP 妥結によって経済のブロック化に似た現象が生じることにより、域内の国家間の経済格差が拡大するリスクが懸念される。特に ASEAN については、一部の国が先行する形で TPP に参加することによってこれまで進められてきた域内統合にどのような影響が出てくるかが大きな問題となる。また、TPP 参加国の国内においては、競争的な市場環境によって淘汰される産業が出てくることが予想され、産業構造調整の過程で国内格差（勝ち組と負け組）の問題が出てくることが指摘される。

こうしたポスト TPP 局面におけるダイナミックな変化やそれによって生じるリスクを的確に分析し、取り組むべき課題について検討を進めること、その上で持続的な経済成長とインクルーシブな経済統合を推進するために明確な道筋をつけることが今後の経済外交をグローバルに展開していく上で極めて重要になっている。

（「ポスト TPP 研究会」についてはこちら(<http://www2.jiia.or.jp/RESR/h27rpi09.php>)から）

## (2) 取り残される大国ロシアの問題

TPP 妥結後の中長期的なアジア太平洋地域の地域統合の進展を展望する際、域内の主要国の一つでありながら政治的・経済的に統合プロセスにうまく参画出来ていないロシアの動向を見ておくことは日本の経済外交、とりわけエネルギー外交にとって極めて重要となる。

プーチン政権の発足以後、ロシアは発展著しいアジア太平洋のダイナミズムを取り込むべく、政治的・経済的重点をアジア太平洋地域へ大きく配分することを最重要課題として掲げるようになった。APEC メンバー国として 2012 年 9 月に APEC 首脳会議を極東ウラジオストクで開催するところまでこぎ着けたものの、その後は今年のウクライナ危機を機にロシアの東方シフトは今や岐路に立っている。ウクライナ危機後、日本を含む旧西側諸国とロシアの関係は急激に悪化し、ロシアの G8 からの排除にまで発展しており、対露制裁がロシア経済と財政にダメージを与えている。以前のような大規模開発プロジェクトを進めることが困難となり、東方シフトにブレーキがかかっている。他方、こうした旧西側諸国との関係悪化は、制裁の局外に立つ中国への接近を加速させる要因ともなっており、これら相反する動きから、アジア太平洋国家であることを標榜してきたロシアの今後の対外経済政策をどう予測し得るかは、今後のアジア太平洋地域の経済統合との関係で重要な問題となる。

米国とともに TPP を主導する日本としては、当面はその外縁に位置し対峙することになるであろうロシア（並びに中国）をどのような形で新しいアジア太平洋の経済秩序に関与させていくべきかが今後ますます重要な課題となろう。「取り残される大国ロシア」の動向がポスト TPP のアジア太平洋地域の経済秩序を考える上でのもう一つの重要な視座となる。（「ロシア研究会」についてはこちら(<http://www2.jiia.or.jp/RESR/h27rpj10.php>)から)